

ふるさと佐賀への誇りをいただき 将来地域で活躍できることを育む

子どもたちの体験活動「志^{したいけん}taiken」支援事業の取組事例を御紹介します

様々な体験・交流活動を通じて、伸びやかで健やかな成長を促し、佐賀への誇りや愛着を持って、将来地域で活躍する子どもたちを育成することを目指す「志 taiken」支援事業。

今回は、令和5年度の取組事例を御紹介します。

地下道を大好きな場所に！

若楠校区まちづくり協議会子ども育成部会では、若楠小学校の通学路でもある地下道をもっと明るく楽しい場所にしようと、子どもたちを中心に各世代の住民が手を携え、交流しながら地区のイメージを変えるための取り組みが行われました。

若楠校区は、多くのSAGA2024（国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会）の競技が行われるサンライズパークがあることから、同大会で使用されるピクトグラムと若楠小学校児童のアート作品を組み合わせ、縦2.0m、横8.8mの大型アートパネル（壁画）を制作。令和6年2月16日公開、除幕式が行われました。併せて、児童の投票の結果、この地下道の愛称を「すくすくロード」とすることが発表されました。



すくすくロード(若楠地下道)



大型アートパネル(壁画)全景



ピクトグラムと児童の絵を
組み合わせたデザイン



校内での検討会
(若楠小学校)

6年児童への振り返りアンケートでは「みんなで協力してデザイン案を出して完成することができた」など、地元を良くするという意欲を持ってみんなで取り組んだことへの達成感や、「除幕式では緊張したけれど来賓の方々に失礼なことを言わないようがんばった」など初体験のことも一生懸命やり切った自信がうかがえます。また、ある児童は「下見の時手すりを触ったら真っ黒になったので、次回は友達を誘ってぴかぴかに磨きました」「手すりがきれいになったので、SAGA2024ではたくさんの人に使ってほしい」との感想を寄せています。

地元への誇りや愛着がより深まり「おもてなし」の心も芽吹き育まれつつあるようです。